

風花

松山久秋

最初はそれが雪だとは思わなかった。数年前、友人と春の柔らかい日差しを浴びながらゴルフをしていた時のこと。空に雲はなく、いい天気だった。コースを歩いていたら、突然、白いものが舞うように落ちてきた。周りに桜の木は見当たらないけれど、桜の花びらかなと思った。桜でなかったら、梅の花びらか、と見ていたら、花びらはフェアウェイに落ちて消えた。

友達が、これは風花（かざばな）だと教えてくれた。風花というのは、キツネの嫁入り（天気雨）の雪版。晴天なのに雪が降ってくる現象。自分には初めての経験だった。なぜ、晴れているのに雪が降るのだろうか。離れたところで降る雪が風に飛ばされてくる場合と、山に降り積もった雪が風に飛ばされてくる場合があるらしい。このゴルフ場は西側に高い山が多いので、山の雪が風に飛ばされて来たものようだ。

友達は、沢田研二の歌（阿久悠作詞）に「風花」が出てくると、栃木弁では「ふっかけ」と言うことも教えてくれた。「♪♪秋に枯葉が冬に風花 つらく悲しく 舞い踊る♪♪」。別れるしかない、せつない不倫の歌だ。自分はそんな経験はないけれど、この歌を歌うと、一時、その歌の物語の主人公になったような気になる。栃木弁の「ふっかけ」は、晴れているのに、風が山の雪を運んできて、雪を吹っ掛けられる、という感じだろうか。

それが、どこのゴルフ場だったか、すっかり忘れていたが、あるきっかけで思い出した。それは、西那須野のゴルフ場だった。風花を初めて見た時の周りの風景も思い出した。赤松の林を抜けて、前に湖が広がり、視界が開けた場所だった。晴れているのに雪が降るのに驚き、不思議だった。古い手帳をひっくり返して見ると、それは2016年4月のことだったことが分か

った。新幹線で那須塩原に行き、ハウライカントリーでプレイ、温泉につかって一泊。翌日、西那須野カントリーでプレイした。西那須野カントリーはフェアウェイが洋芝（ベント芝）で、他のゴルフ場はまだ枯草色なのに、緑だったことを覚えている。昔住んでいたニューヨークのゴルフ場の芝に似ていた。ターフが取れるので、上手くなったかと錯覚する。千本松牧場で飲んだ牛乳が特別にうまかったことも思い出した。

昨日のこともよく思い出せず、直前のことや、何かをしようと思ったことも、すぐ忘れてしまう。それでもゴルフに関することは、他のことに比べると覚えている。と言うことは、ゴルフは脳の活性化に良いに違いない。ゴルフをやる口実がこれでまたひとつ増えた。



（風花を見た日の西那須野 CC）